

## ◎意見一覧（福祉の将来像、大切にしたい価値等）

	キーワード	説明
1	困らない、わかりやすい、平等な、福祉	「どこに相談したらいいの?」、「手続きが面倒で…」、「あの人は適用されたのに私はだめ」等、まだまだ福祉が“ほどこし”であるという日本の風習を強く感じます。24時間とまでは言わないが、役所が土日に対応不可であることが区民にとっては大きなストレス。オンライン対応等、改革を期待します。
2	地域と行政のつながり	三つの繋がりのうち（地域と行政の繋がり）は重要と思います。現場と顔を合わせながら議論できる担当者がやはり理解度が早い、時間と労力を惜しまないで行動する姿は、現場では一番信頼される。困難な事例でも解決が出来ることを経験している。人と人の繋がりが基本ですが。行政とこのような事例でも残念なのは、まったく違う分野の部署に異動することで繋がりがなくなり改に人が変わることのマイナス。対策は難しが前例をなくすとの考えならば決断によりその部署の『主』が存在しても良いのではないかと。
3	気軽に相談ができる場所	小さな出張所は地域と行政が繋がる最高の相談所、場づくりのハードルに懸念があるとのこと。意見は前例を作らないとの今回の方針であれば解決できることではないか。（つながる、任せる、信頼する）小さければ小さいほどスピードがあり実現しやすい。よっちゃん家の事例がたくさんある。
4	多世代のかかわり	計画後の推進は、現場の声を重視した討論が重要だと感じます、今回の委員会メンバーに、若い世代の参加がないのが残念だった、今後はこの人たちとの討論会が必要と感じた。
5	福祉人材の育成	福祉人材育成は、地域には子どもを育て地域に戻るを私は以前から実践している、地縁が薄れるときには継続的人材育成をお金をかけてもするべきです。学校教育にも福祉と教育との繋がりの過程にても人材育成は可能だと思います。
6	安心して暮らせる地域	生活上、何か不安になるようなことが生じても、相談先があることを知っている、不安の解消に対応してくれるところがある、そのような環境が提供できればよいと思う。
7	すべての人と地域がつながった安全で幸せに暮らせるまち	人と人、人と地域、地域と地域がつながってコミュニケーションを、リアルでもバーチャルでも図れるまち。そのまちは安全で、だれもが自分の価値観にあった生活ができて、幸せを感じていることが大切だと思いました。

	キーワード	説明
8	<p>相談したいとき、孤独を感じた時、“あそこにいけば何とかなる”という安心感があるような、江東区</p>	<p><u>孤独は山になく、街にある。</u>  <u>一人の人間にあるのではなく、大勢の人間の「間」にあるのである。</u>  <u>三木 清</u></p> <p>江東区社会福祉協議会の第四次5年計画「粋いきプラン江東」策定にあたり、委員としてかかわった。その時の基本理念は以下の通りである。  <u>区民一人ひとりが住み慣れた地域で、だれもが参加し支えあい、安心してともに暮らせる「福祉のまちづくり」の実現</u></p> <p>この理念のもと、目標の設定や達成のための方針が掲げられた。</p> <p>現在当区においても、高齢化が進展し、高齢者だけの世帯や高齢者のひとり暮らしが増えている。また統計上、区内の世帯当たりの構成員数は2を割り込んでおり、核家族や単身世帯の増加が顕著であるという。であるならば、家族で支えあう機能が弱まっていると言える。さらに住民の流動性も高く、地域における人間関係や地域への愛着感も希薄化している現状がある。そうした中で、老々介護、8050、認知症、孤独死、虐待（子供も含めて）、生活困窮、子育てにおける貧困の連鎖、等々の問題が後を絶たず生じ続けている。</p> <p>本委員会で、資料として配布された「地域福祉に関する区民意識調査～調査への協力をお願い～」に、（地域共生社会）（地域福祉）（三つのつながり）についての記載がある。そこには、“つながり”“助け合い”という文言が、重要な意味を持つ言葉として用いられている。</p> <p>福祉の諸問題に対し、行政はこれまでも様々な支援策やシステムを作り対応にあたってきている。しかし、複雑多様な問題にすばやく対応しきれないところもある。そもそも、行政だけで福祉の課題の全てが解決できるわけもない。</p> <p>平成30年の社会福祉法一部改正以来、「我が事 丸ごと」というフレーズが盛んに喧伝された。家族内（世帯内）の支援力が弱まっている今、地域に住む住民が参加して、地域の中の問題を”我が事”として助け合っていく、支えあっていくことが大切である。先に挙げた社協の「粋いきプラン江東」においても、“区民の皆さん一人ひとりの、主体的な地域福祉活動への参加が欠かせない”と記してある。</p> <p>行政や関係機関も含め、町会、自治会、民生委員、ボランティア、NPOなど、担い手同士のつながりや協働による地域力の強化が重要である。</p> <p>体系図に示された施策、三つのつながりの促進によって、地域力のアップ、制度や仕組みの充実、相談のしやすさとワンストップ等、着実に進捗していくようなプランなることを期待します。</p>
10	<p>福祉を、もっと明るく、楽しく、さりげなく日常に取り込める未来</p>	<p>同じ福祉のくくりでも、“命や生活の位維持”、“他者との関わりや居場所”、“もっと幸せに、自己実現の探求”等、人々が求めるカタチは様々。それぞれを個別に分けて考えるやり方が既存の福祉だとすれば、これからはもっとフレキシブルな発想が必要ではないか。</p> <p>「困っている人を助けるために参加したけど、実は自分の生きがいを見つけた」等、一人ひとりの人生に福祉という新たな価値観を加えていく。そして、福祉を もっと明るく、楽しく、さりげなく日常に取り込める未来になればと思う。</p>
11	<p>地域の各機関が協力し、安心・安全な生活ができるような計画</p>	<p>各町会、長寿サポートセンター、民生委員、福祉会館、ふれあいセンター等にもう少し協力してもらい、安心・安全な生活ができるような計画を作っていきたい。</p>

	キーワード	説明
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを大切にする、子供の成長を温かく見守る社会</li> <li>・高齢者が共に生きがいを共有できる社会</li> <li>・いじめの無い、人種差別のない、貧富の差で決めつけられない社会</li> <li>・病気の人も元気な人も、心が病んでいる人も、互いを思いやれる社会</li> </ul>	<p>多様な価値観、生き方を包括していく社会を目指すことが言われる一方で、分断の社会、格差拡大の社会ともいわれています。</p> <p>実感として、後者の分断・格差拡大による生きにくさを感じる人が多いです。仕事として関わっている障害を持った、又は非定型的発達を示すような子ども達が共に育つ社会、成長しても共に生きていけるような社会を目指して、日頃からの「つながり」を大切にした社会の『福祉』計画を考えていきたいです。その前提には、左記のような想いがあります。</p> <p>日々の自分自身の気づきや努力が重要になると思っています。様々な人々のアイデアが必要です。</p>
13	福祉（当たり前の暮らし、幸せな暮らし）という言葉のもつ本来の意味を、すべての人で共有できる地域にしていきたいと考えています。当事者や地域の声を大切に、地域福祉計画を作成するメンバーとして責任を果たしていければと思います。	福祉（当たり前の暮らし、幸せな暮らし）という言葉のもつ本来の意味を、すべての人で共有できる地域にしていきたいと考えています。当事者や地域の声を大切に、地域福祉計画を作成するメンバーとして責任を果たしていければと思います。
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の自助力の醸成</li> <li>・共助力を生かす仕組み</li> <li>・これらを作るのが公助の役割</li> </ul>	<p>行政サービスがサービスとしてスムーズかつ便利に対応してもらえたらこんなに暮らしやすいことはない、と思いますが、一方で、行政がホスピタリティ高く、市民の暮らしを安心安全に守る、というセキュリティから衣食住まで全てサービスで対応します、という立場になってしまうのは違うのではないかなと思います。</p> <p>市民力を生かさない地域づくりは、市民を客体化、弱体化させ、有事の際の行政のサービス能力が著しく低下した時には、サービスを強く要求する声が高まったり、弱者を守る力がさらに弱くなるだろうと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の自助力を日々の暮らしの生活の中でどう醸成するのか、</li> <li>・共助力を生かす仕組みを作るのか、</li> <li>・が公助の役割ではないか、と思います。</li> </ul> <p>江東区では市民協働の力が弱いです。新住民が多数増えていますが、新住民の声が生かしづらい構造があります。なぜ弱いのか、なぜ市民の声が届きづらいのか、考察が重要かと思っています。</p>

	キーワード	説明
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりが生き生きと生活し、自分の夢を実現できる社会</li> <li>・すべての人が挑戦できる機会が均等に与えられる社会</li> <li>・一人ひとりの尊厳が守られる社会</li> </ul>	
16	<p>(今まで活かしきれなかった)住民力を活かせる、住民一人ひとりが役割を持っていきいきと生活できる江東区</p>	<p>社協では、江東区地域福祉活動計画を「区民一人ひとりが住み慣れた地域で、だれもが参加し、支えあい、安心してともに暮らせる『福祉のまちづくり』」という理念の基に、現在第四次計画を推進しています。その理念の中に「だれもが参加し、支えあい・・・」とあります。</p> <p>江東区には福祉活動に主体的に参加する市民力のある方や団体等が数多くいらっしゃいます。また、様々なスキルを持って、活動の意欲を持ちながらも、活かす場につながらない方も数多くいらっしゃいます。その方々や団体の力を住民同士、団体同士、住民と団体、また行政等とつなぐことが出来たら、福祉のまちづくりは大きく前進するのではないかと期待します。今まで活かしきれなかった住民力を活かせる、住民一人ひとりが役割を持っていきいきと生活できる江東区を理想とします。</p> <p>そのために施策推進の方向1の「3つのつながりをつくる」がとても重要で、しっかりとその仕組みを作れる施策を計画に盛り込むことが大切と考えます。ただ簡単ではないことも理解し、長期を見込んで世の中の動きに対応できる柔軟性のある計画であることも大切かと考えます。</p>